

## 第9回市民参画部会 要点録

日時：平成29年11月16日（木）18：00～20：00

場所：日野市役所504会議室

出席委員：小倉委員 東京農工大学名誉教授  
鶴田委員  
濱田委員  
井上委員  
森川委員  
片山委員  
山本委員 都市計画課  
岡澤委員 区画整理課  
石黒委員 環境保全課  
藤田委員 環境保全課  
清水委員 学校課  
奥野委員 庶務課  
大日向委員 生涯学習課  
小島委員 健康課

※敬称略

### 次第

- 1.開会・あいさつ
- 2.ワークショップ（資料1・参考資料1・参考資料2）
- 3.その他

### 配付資料

- 資料1：第9回市民参画部会 シンポジウムに向けての重点プロジェクトの詳細検討  
資料2：生物多様性地域戦略策定部会今後の予定について  
参考資料1：市民主体で実行する重点プロジェクトの内容  
参考資料2：第8回市民参画部会ワークショップの結果

## ワークショップの概要

### 検討テーマ

市民主体で実行する重点プロジェクトについて、どのように市民参加を促すか、1年目の取組計画の詳細について具体的な検討を実施する。

### 内容

シンポジウムで紹介する重点プロジェクトについて、以下の2点から内容を具体的に検討する。

#### ①重点プロジェクトに市民の参加を促す方法の検討

重点プロジェクトを3か年にかけて推進し、発展させるためには、市民の参加・協力を促すことが重要になります。そのため、重点プロジェクトを多くの市民にひろめ、参加を促す方法を検討します。

#### ②1年目の取組計画の検討

市民への参加を促すにあたり、どのような方法で、どのようなタイミングで市民に協力を仰ぐ必要があるのかを明確にするために、取組1年目の事業スケジュールを検討します。

### 班分け

3班に分かれてワークショップを行う。

#### ・A班

基本方針：人々の関心を高める

重点プロジェクト1：自然にふれあう原体験を促すための体験プログラムと普及啓発冊子の作成

#### ・B班

基本方針：人と自然の関わりをつくる

重点プロジェクト4：市民が利用する生きもの調査マニュアルの作成

#### ・C班

基本方針：日野らしい自然を守り育てる

重点プロジェクト7：多くの生きものが集まるまちづくり

## ワークショップの結果

### A 班

#### 基本事項

<p><b>基本方針：人々の関心を高める</b></p> <p><b>重点プロジェクト1：自然にふれあう原体験を促すための体験プログラムと普及啓発冊子の作成</b></p> <p>＜スケジュール＞</p> <p>平成 30 年（1 年目）：コンセプトの検討と、学校や市内活動団体などとの共同実施体制の構築</p> <p>平成 31 年（2 年目）：自然を理解するための体験プログラムの検討と試験的運用、普及啓発冊子の原稿づくり</p> <p>平成 32 年（3 年目）：前年度で試験運用を実施した体験プログラムの本格運用と、体験プログラムと連動した普及啓発冊子の作成</p>
---

#### ワークショップの内容

<p><b>内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>市民の参加を促す方法 →地形ごとに！</u></li> <li>・ 丘陵編、川編、台地編のプログラムをつくる</li> <li>・ 導入部に日野の生きものの豊かさをやさしい言葉で書く</li> <li>・ 浅川、多摩川、用水に絞っても良いのでは</li> <li>・ 保護者も後に関心をもてるような仕立てを</li> <li>・ 先生たちが教えられるように仕立てたい</li> <li>・ 公開授業で使えるもの</li> <li>・ 釣りのポイント、川に降りられるところ、危ないところの紹介</li> <li>・ 白地図的に生きものマップを自分でつくってみる</li> <li>・ きれいな花、おもしろい実などで山編を構成</li> <li>・ 既存の冊子などを活用。文スポのマップなど</li> <li>・ 格好（服装）。危ない生きもの、場所</li> <li>・ ボリューム的には武蔵野市のものくらいで良いのでは</li> <li>・ 「きっかけの冊子」と「詳しい冊子」の 2 冊をつくっても良いのでは</li> <li>・ 最後に参考になる本やウェブのアドレスをのせては？</li> </ul>
<p><b>対象</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学生（小・中学年）とその親</li> <li>・ 幼稚園でも良い</li> </ul>
<p><b>スケジュール</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月予算要求の基礎を固めたい</li> </ul>
<p><b>成果品</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>記入のできる冊子！</u></li> <li>・ 読むだけでなく、行動につなげられるもの</li> <li>・ 日野市生きものギネスブック</li> <li>・ 自分でつくり上げる冊子</li> <li>・ どんな生きものを見つけると「レベル〇〇」などを紹介し、子どもの関心をひく</li> <li>・ 持ち寄って☆の数比ベをして、何を見た？などの話の導入にする</li> </ul>
<p><b>その他</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの日野の取組はかたいイメージ 水辺 50 選など（悪くないが）</li> <li>・ 見本（他の自治体の事例）をいろいろと見てみたい</li> <li>・ 学校により格差がある。自然への近さが違う</li> <li>・ 六小、旭が丘小は自然が少ない（台地部）</li> <li>・ 家庭でやってもらえれば遠さの面はカバーできるのでは</li> <li>・ 丘陵部は丘陵部の自然がある</li> </ul>

## 要点

7月までに原稿を作成するスケジュールを想定しており、冊子のボリュームは30～40ページのA5サイズで検討を進める。日野の生きものの特徴をマンガで示し、子どものいる家庭で使える内容とする。内容は、生きもの図鑑、場所ごとの道具の使い方などを掲載し、総合学習で使える資料を目指している。



ワークショップの成果



ワークショップの様子

## B 班

### 基本事項

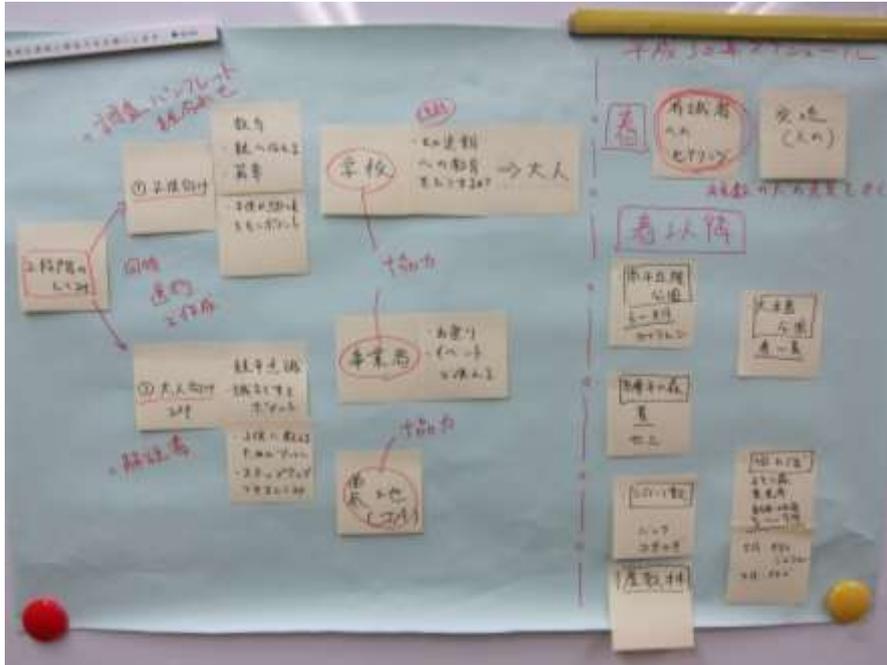
<p>基本方針：人と自然の関わりをつくる</p> <p>重点プロジェクト4：市民が利用する生きもの調査マニュアルの作成</p>
<p>&lt;スケジュール&gt;</p> <p>平成30年（1年目）：調査対象とする生きものの検討</p> <p>平成31年（2年目）：市内のイベントとして調査マニュアルの試験運用の実施</p> <p>平成32年（3年目）：学校行事として調査マニュアルを利用する</p>

### ワークショップの内容

内容	<p><u>2段階の仕組み</u></p> <p>①子供向け …絵合わせ 教育、親へ伝える、簡単、子供が興味を持つポイント</p> <p>②大人向け …解説書 競争意識、識別するポイント、子供に教えるためのツール ステップアップできる仕組み</p>
連携の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校 幼児期への教育をどうするか？ →大人に向けて</li> <li>・事業者 お祭り、イベントで使える</li> <li>・JA 農地での取組</li> </ul>
スケジュール (平成30年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春 <u>有識者へのヒアリング</u>、複数の人の意見を聞く、交流（人の）</li> <li>・春以降 場所の検討</li> </ul>
場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南平丘陵 6～8月：カブトムシ</li> <li>・大木島公園 春～夏</li> <li>・多摩平の森 夏：セミ</li> <li>・河川敷 バッタ・コオロギ</li> <li>・田んぼ よそう森、東光寺、新井地区 5月：オタマジャクシ 9月：イナゴ</li> <li>・屋敷林</li> </ul>

## 要点

調査パンフレットは子供向けの絵合わせと、大人向けの解説書をつくることで、子どもと大人を対象とする構成が検討された。パンフレットは学校や事業者、JAなどと協力して利用することを想定している。平成30年のスケジュールとして、春には有識者などの多くの人の意見を集め、その内容をふまえて場所ごとにパンフレットで調査ができるかどうかを実践する。



ワークショップの成果



ワークショップの様子

## C 班

### 基本事項

基本方針：日野らしい自然を守り育てる

重点プロジェクト7：多くの生きものが集まるまちづくり

<スケジュール>

平成 30 年（1 年目）：生きものを集めるまちづくりについて、先行事例などの研究を実施

平成 31 年（2 年目）：生きものを呼ぶための植物を検討・整理

平成 32 年（3 年目）：市内のどこか 1 か所で実際に取組を実施

### ワークショップの内容

<p>参加者の募り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のステップアップ 知る→行動する</li> <li>①興味をもってもらおう</li> <li>・観察会への参加 一般市民 生きもの探し隊</li> <li>・事例見学への参加 団体・企業など</li> <li>・自由研究にも使える 小学生＋親</li> <li>②体験・行動してみる</li> <li>・ガーデニングの体験&amp;蝶の体験 呼ぶ生物、植える植物の検討</li> </ul>
<p>スケジュール (1 年目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①まずは知る！ 委員自ら観察会 →その後市民の方へ 観察会をやる（勉強会） 先行事例研究と共に植物の検討もする 先行事例の見学・調査</li> <li>植える品種の研究（園芸種・在来種） 市内のどこにどの植物があるか</li> <li>②場所を決める！！ 場所の候補：カワセミハウスの裏の高台 or 斜面 市内の公園も候補 南平丘陵公園の野草園</li> <li><b>条件</b></li> <li>・家庭でもできる手軽な取組み</li> <li>・チョウが繁殖できるような一定規模の緑</li> <li>・人が集まりやすい立地</li> <li>・4～5m の木が植えられる</li> <li>・20～30 坪くらい必要</li> <li>・管理事務所的な施設がある</li> </ul>

## 要点

まずは見学会や観察会など、学ぶところから開始し、対象とするチョウの検討を実施する。つくる場所はカワセミハウスの近くや南平丘陵公園を候補としている。2年目には実際につくり始められるように進める。学校での自由研究とのリンクや、団体や企業の参加、ガーデニングとの関連付けを行い、学びと結びつく取組みとして展開する。



ワークショップの成果



ワークショップの様子